



中山観光・季節のおはなし・旅便り 1月号

January

謹んで新年のご挨拶を申し上げます

2024 年は大きな災害の知らせとともに始まりました。
はじめに令和6年能登半島地震で被災された皆様
並びにそのご家族の皆様にご心よりお見舞い申し上げます。
皆様の安全と被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。



2024 年が皆様にとって希望に溢れる 1 年となりますように
本年も宜しくお願い致します





2024年は辰年！運気は昇り龍 神社仏閣と龍神パワーで強運を・・・

龍は高貴な霊獣です。
十干の干支である甲辰(きのえたつ)は、大木と龍の組み合わせとなり
大なる躍進に期待がもてそう。

辰(龍)年の始まりに開運祈願
日本は龍の国、
龍神伝説に出会う旅へ

中国の漢書で「辰」という字には、
「振(しん)」=「ふるえる・ととのう」という意味があります

草木がよく成長してしっかり整い、活力が旺盛に大きく変化すること

また辰の字は龍をあらわし、十二支の中で唯一、架空の動物となります。西洋ではドラゴン、
東洋では龍と呼ばれる存在は、ファンタジーの世界などにおいてさまざまに想像され、描かれてきました。

龍は、中国からやってきたというイメージ。お正月や旧正月には、中華街などで、複数人で操る龍が軽やかに
踊るという「龍舞」が披露されていますね。

中国において、龍は四霊獣(麒麟、鳳凰、龍、亀)のうちの一つでその姿は、頭はラクダ、目は鬼、角はシカ、
首はヘビ、腹はミズチ、ウロコは魚、爪はタカ、脚はトラ、耳はウシに似ていると言われ

元の時代(1271~1368年)以降においては、5本の爪を持つ龍は皇帝の象徴とされていました。

元よりも前の時代では、爪の数が4本や3本ということもあったようです。

中国では龍は遙か昔から、重要な動物であり、瑞祥とされてきました。

そして日本の龍は、中国で古くから信じられてきた「龍=皇帝」のイメージを受けて、
独自の信仰や伝説を生みだしているのです。

天高くのぼる竜に守られる辰年「強運」や「お金に困らない」といった言い伝え

辰年は景気が良くなると言われており、株式相場の格言として「戌亥の借金、辰巳で返せ」と
言い表されます。戌年や亥年は株価が下がり、辰年・巳年は株価が上がりやすいので、

戌亥年でできた借金も、辰巳年で取り返せるという意味です。

言い伝えではありませんが、実際に株価が高値を付けた辰年もあるようです。

2024年も景気の良い年になるといいですね。

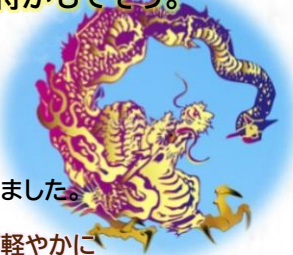
辰年生まれ 2024年の年男・年女は1005万人

男性 488万人、女性 517万人日本の総人口に占める割合は8.1%。

年男・年女の中では、48歳になる昭和51年生まれ(180万人)が
最も多く、最も若い12歳となる人口(104万人)は84歳となる人口(112万人)を

下回っている。また、96歳を迎える22万人のうち、女性は17万人に対し、男性は

5万人一方、平成17年生まれで、2023年に新たに成人に達した18歳人口は
106万人で前の年に比べ6万人減少し、過去最少を更新



日本は世界的に見ても豊かな水に恵まれた「水の国」

私たち日本人にとって清らかな水がどこにでもあるように、水を司る龍神様は、日本全国に
数えきれないほど鎮座しています。よく見ると、日本列島そのものが龍体のよう・・・

2024年の辰年は開運・招福につながる、龍ゆかりの寺社や聖地巡りがブーム

龍神伝説が伝わる神社には、心を潤す絶景が共にあり、大なる大地の力が感じられます。
皆様の地域にも2024年の力の源となる龍神様に会える場所がきっとあるはず

2024年辰年にこそお参りしたい！龍神伝説・パワースポット

龍神神社は日本中のさまざまな場所にありますが、
特に力が強い神社は全国から参拝に訪れる人が後を絶ちません。
龍神には白龍、黒龍、赤龍、青龍、金龍などがいますが、この5種類の龍神が与えてくれるご利益には
それぞれ意味があります。

- 白龍 西を守る、金運、仕事運
- 黒龍 北を守る、家庭円満、健康運、火難除け
- 青龍 東を守る、出世運、芸事に関する運
- 赤龍 南を守る、活力、勝負運
- 黄龍(金龍) 東西南北の中央を守る、金運

お参りおすすめ■九頭龍神社/神奈川

箱根の芦ノ湖に浮かぶ赤い鳥居がシンボルとなっている九頭龍神社。

かつて芦ノ湖に9つの頭をもつ毒龍が住んでおり、嵐を起こしては村人を苦しめていたのを箱根神社を建立した万巻上人が倒し、その後改心した毒龍が龍神に生まれ変わり祀られている神社

参拝者を本宮まで導く「セラピーロード」と呼ばれる道は芦ノ湖の自然に囲まれ湖越しに富士山を望むこともできて癒されること間違いなし！近年では恋愛成就や縁結びの神様として若い女性たちにも人気のあるスポット

春には天に昇るという龍。見上げた空に、龍に似た雲を見かけたら、それが瑞祥かもしれませんね
辰年が、皆様にとって良い一年になりますように。





2024年 第100回東京箱根間往復大学駅伝競走が1月2日から3日にかけて開催

青山学院大学が2年ぶり通算7回目の総合優勝を果たしました。

2015年の初優勝から10年で7回目の優勝

総合タイムの10時間41分25秒は大会新記録



箱根駅伝栄光の礎
若き力を讃えて

毎年多くのドラマを生み、感動を呼ぶお正月の風物詩箱根駅伝も、1987年に日本テレビが生中継を始めるまでは「関東のローカル駅伝」に過ぎませんでした。その歴史は、1920年にさかのぼります。はじまりは「世界で通用するランナーを育てたい」という金栗四三氏たちの思いからでした。金栗氏といえば、2019年にNHKで放送された「大河ドラマ・いだてん」を思い浮かべる人もいないのでしょうか？金栗氏は「彼がいなければ、箱根駅伝は存在しなかったかもしれない」とまで言われる「マラソンの父」日本人として初めてオリンピックに出場し、日本のマラソン界の普及に尽くしてきた人物です。



飛脚
駅伝
駅伝のルーツは飛脚だった → 江戸時代、参勤交代の頃に日本の街道が整備され、街道文化の中で情報をいち早く伝えるために活躍したのが飛脚。飛脚は長い区間、ひとりで走りきるのではなく、数人でバトンタッチして、なるべく早く情報を届けました。これが駅伝の原点とされています。

今では、誰もがテレビ中継を通してレースを見ることが出来ますが、大会当初からテレビ中継が行われていたわけではありません。

冬場に行われる箱根駅伝では、箱根の電波が悪かったため、テレビ中継をすることが出来ませんでした。

そこで、日本テレビが山中に無線機地を設置して電波を飛ばせるよう整備したのです。そのおかげで、1987年からテレビ中継が行われるようになりました。

箱根

箱根は東海道の要衝のひとつで、古くから宿場町として栄えてきました。

箱根峠は「天下の険(けん)」とも謳われた難所で、かつての人はこれを越えるために宿場町で

英気を養っていたといわれています。今では見どころもいっぱい...

箱根で一番古い名湯は「湯本温泉」・まるで地獄のような風景「大涌谷」・湖に浮かぶ朱の鳥居で知られる「箱根神社」

箱根の絶景を見下ろし空中散歩で人気の「箱根ロープウェイ」・巨大アートと壮大な自然のコラボ「彫刻の森美術館」

散策やクルージングが楽しめる「芦ノ湖」など...

箱根観光最大の魅力は景色と芸術鑑賞が同時にできること



前ページにもあるように今年の干支は辰です。良き年を願って「龍」にゆかりの深いスポットへおでかけしてみるのはいかがでしょうか。

箱根で古くから「九頭龍さま」と親しまれてきた九頭龍神社は、箱根・芦ノ湖の守護神・九頭龍大神を祀る古社。

商売繁盛・金運守護・心願成就・良縁成就などのご利益でも知られています。

実は九頭龍神社は箱根の2か所に祀られていて、箱根神社の境内にあるのは新宮。

新宮には「龍神水舎」があり、箱根山から湧き出た霊水「龍神水」をいただくことができます。

ちなみに、このお水はペットボトルに入れて持ち帰ることも可能

龍神水は、口をゆすげばすべての不浄を洗い清め、持ち帰って神棚に供えれば家内安全や開運のご利益があるとされています。

本宮は同じ芦ノ湖畔でも少し離れた場所にあるため、まずは箱根神社と九頭龍神社 新宮からお参りしてみましょう。



仙石原 桃源台 大涌谷 湖尻 箱根園 箱根神社 元箱根 箱根町 芦ノ湖 周囲 約20Km 標高 723m 最大深度 43.5m 旧街道 本多並木 樹齢300年 約400本

大河ドラマ 光る君へ

「源氏物語」の作者・紫式部を主人公にした大河ドラマ「光る君へ」が1月7日から放送開始
平安時代中期を舞台に日本最古の長編小説『源氏物語』を生んだ紫式部の生涯が描かれるということで今から楽しみにされている方も多いのではないのでしょうか

教科書に出てくる日本古典の中で、最も知られているのは「源氏物語」ではないでしょうか。

源氏物語は光源氏という貴族の男性の一生を通して人の生き方や様々な人々の出会いと別れを細やかに描いたお話です。

平安時代の貴族の生活や政治、自然や行事の様子も知ることのできる日本最古の長編小説で海外からも高く評価されています。

紫式部が書き上げた世界最古の長編小説とも称される、五十四帖に及ぶ『源氏物語』の

構想が生まれた場所と伝わるのが、滋賀県大津市にある石山寺です。

紫式部はお仕えていた中宮・彰子の要望を受け、

新しい物語を作るために石山寺に7日間参籠していました。

その時、琵琶湖の湖面に映った十五夜の月を眺めて、

須磨の「今宵は十五夜なりけり」の一節を書き出したことが

「源氏物語」の始まりだったと言われています。



源氏物語の主人公は光源氏(帝の第2皇子)

幼い頃に母を亡くすが、輝くように美しく

人の気持ちを考えられる優しさもあり

頭もよい青年に成長…

母の身分が低かったこともあり皇子ではなく

帝の臣下の身分となり源氏を名乗る。

その光輝くような美しさから「光源氏」と呼ばれた。

紫式部が書いた源氏物語の主人公「光源氏」は物語の中では

光る君と呼ばれ、紫式部が親しかった藤原道長公がモデルではないか？

という説が残っている

溢れる光と寄り添う影・光る君に思いを馳せる

紫式部の名前は本名ではありません。当時の天皇の后に仕えたときの役職名が「藤式部(とうのしきぶ)」でした。

「源氏物語」が大変な評判となって尊敬されたことと、物語中の高貴な登場人物に

「むらさき」にちなむ名前が多いことから、この呼び名で呼ばれるようになったといわれています。

紫式部ってどんな女性？

紫式部は、母を幼い時に亡くし、漢学者の父、藤原為時に育てられました。

姉と弟がいたようですが、姉は若い時に亡くなっています。

幼少の頃から聡明で文才があり、父は弟より姉の式部の方が漢文の覚えがよいことから

「お前が男であつたらなら…」とよく嘆いていたというエピソードは有名

式部は書物を読むのが好きで教養の豊かな才女に育っていきました。

20代後半に藤原宣孝と結婚…やがて娘が生まれましたが、夫が突然他界したこと

夫を亡くした深い悲しみに打ちひしがれたといひます。

そんな時、遠縁にあたる藤原道公を通じて喪失感を埋めるように書き綴ったのが源氏物語です。

式部は悲しみと失意の中、筆を取ることで前を向くようになり、知人の間で読まれていた物語は

やがて宮中でも評判を呼ぶようになります

道長公の娘で、天皇のお后でもある彰子様のお世話係として仕えるようになった後も書き連ねられた

源氏物語は54帖に及ぶ大作、日本最古の長編小説です。

時は平安中期…舞台はきらびやかな宮廷

主人公の光源氏には何人もの后がいました。

決して華やかなファンタジーではなく

時に壮絶に、時に物哀しく、

人々のドラマを描いた源氏物語

人を好きになることゆえの苦しみ、嫉妬、喜び、葛藤…

自らもままならぬ人生に、その瞳をみひらいて向き合い

紫式部は人々のすべてを等身大で描き切りました

紫式部が生きた時代は貴族の時代(平安時代)

平安京を都として、天皇や貴族が政治を

行っていました。紫式部の時代は藤原氏が

実権をにぎり中国などからの影響が薄れ

日本風の文化が開花しました。



遊びもいっぱい

歌合わせ・絵あわせ

すごろく・けまり・碁

舟遊び・紅葉狩り・鷹狩り

かな文字の誕生



女性の正装は十二単

何枚もの衣を重ねて着る衣服

上着の下は5枚重ねが基準

極楽浄土の世界へ

色の調和もポイント

仏を信じて極楽浄土への生まれ変わりを願う信仰が

流行…宇治の平等院鳳凰堂は極楽浄土を表し

10円玉の図柄にもなっている

